『はならぁと』は、設立当初より「古いものを大切に保存し継承する」ということを土台として、芸術祭を行なってきました。現代美術を通し、作品とのコミュニケーション、作家との交流、国際交流・発信をしながら地域とアートをつないできました。過去９年間の開催をきっかけに、41 件の空き町家が店舗や移住者の住居等として利活用されています。10 年目の『はならぁと』は、「地球環境問題」をテーマに、アートを通じてみんなで話し合う場を作ります。

今年は、未来の地球のために私たちがどのように感じ - 考え - 選び - 行動していくべきかを現代美術を通して、見つめ直す、地球に優しいエコロジカルな芸術祭を開催します。

■はならぁと 2020 の特徴

●こあ

『はならぁと』のメイン企画として、ゲストキュレーターを迎え、地域性を再考察し、現代日本の課題を読み解くことで新しい価値を提案・発信する、実験的な展覧会を開催する本芸術祭のメインエリアです。

(橿原エリア・今井)

<u>持続可能な社会についてアートを通した視点</u>

・キュレーター企画展覧会テーマ :「そして、それはいつか土へと」

奈良県をベースに日仏若手美術家の活動支援を行っている内田千恵氏をキュレーターに迎え、歴史的建築物が残る今井町を舞台に、空き町家、生活広場、公共施設等の８会場を使用し、フランス人作家１名を含めた７組の現代美術家の展示を企画。

出展作品の主体となるのは、自然から生まれ、いつか地球へ還る素材です。作家が作品を制作する上でこの素材となる物質、制作過程について考察することで、環境問題への関わりを提議します。

地球環境と人間の関係性が変化しつつある時代にあって、美術作品という、本来作家が生み出し、そこで完結すべきものの行く末を見つめることにより、美術を通して古くから続いてきた環境と人間との関係を再考察する一点となることを期待します。

出展作家紹介

牛島光太郎　Kotaro Ushijima
会場：今井まちなみ交流センター華甍

1978 年福岡県生まれ、松山市在住（2017 年 -）。言葉を用いた作品を制作。日本での活動に加えて、ドイツ、台湾、中国、ニューカレドニアなどで作品を発表。

黒川岳　Gaku Kurokawa
会場：旧米谷家住宅

1994 年島根県生まれ、京都府在住。
自身が出会った様々なものの音や形、動きを注視し、それらを自らの身体で捉えようとする行為を繰り返す中で生まれる形や動きなどをパフォーマンス・立体・映像・プロジェクト等様々な形式で発表している。

撮影：表恒匡

山本聖子　Seiko Yamamoto
会場：大橋家

1981 年大阪府生まれ。
均質的に区画整理されたニュータウン独自の空気や人、生活の在り方への違和感を制作の出発点にしている。近年では海外での滞在経験などから、身体性やアイデンティティについて、「色」をテーマにインスタレーション、映像、写真、彫刻など様々なメディアで制作・発表をしている。

野村由香　Yuka Nomura
会場：蘇武橋公園 / 旧西町生活広場

1994 年岐阜県生まれ、京都府で活動。
人間の生を大きな循環の一部として、生物のもつ条件や避けられない境遇を受け入れた上で日々の選択を行うことに関心をもつ。身近な物事に潜在する作用を見い出し、選択を続けることで形成される態度が、現代で柔軟に生きる知恵になると考え表現を通して探っている。

撮影：やまねかおり

たかはしなつき　Natsuki Takahashi
会場：今西長屋 A

1971 年千葉県生まれ、奈良県在住。
奈良県宇陀市室生の森より自ら木を運び出し、広葉樹から針葉樹まで様々な種類の木材で森の精霊や架空の生き物たちを制作。漆と麻布を張り合わせ最後に金箔を施す木心乾漆（もくしんかんしつ）技法を使用し制作。

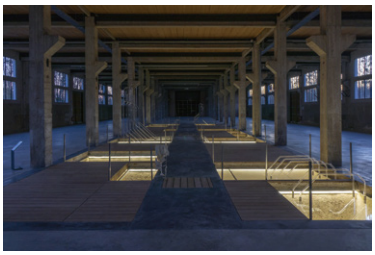
※写真は展示作品の紹介ではありません。

川野直紀 + 柳澤景子　Naoki Kawano+Keiko Yanagisawa
会場：今西長屋 C

川野直紀
1988 年熊本県生まれ、パリ在住。
素材の持つ独特の質感に着想を得て、作品を制作する。様々な素材が用いられる作品は、コラージュやペインティング、平面から立体まで幅広いが、一貫して鑑賞者が強い感情を想起するような表現が意図されている。

柳澤景子
1988 年長野県生まれ、パリ在住。
自然から得たインスピレーションを、繊細なペン画で表現する。日本の伝統的な色使いと現代的な着想によって、動き出すような空想の植物を描く。

宮坂直樹 + アンヌ＝シャルロット・イヴェール　Naoki Miyasaka+Anne-Charlotte Yver
会場：今西長屋 B



宮坂直樹
1985 年千葉県生まれ、現在は京都府 / パリで活動。
知覚と思考を含む観照の概念を基に、メディウムを観照的支持体として解釈し、観照によって様々に現れる空間の概念を考察する。また、ジェレミ・ベンサムのパノプティコンやル・コルビュジエのモデュロールなどの機能主義の理論を、他者の知覚を推測する理論へと再解釈する。

アンヌ＝シャルロット・イヴェール
1987 年サン＝マンデ生まれ、現在はパリで活動。
秩序と混沌の間で、彼女の制作は無限に継続する。連続的に調整される実験的な構築によって、物質性と空間における容態の変容過程を明示し、彫刻が設置される建築に働きかけることで、動線と知覚を変容する没入型の環境を創造する。

左：クレジット　展覧会名：Three Spaces　撮影 : 加藤健、画像提供 : Tokyo Arts and Space
右：クレジット：Leaking Point 2002　撮影：Simon Castelli-Kerec　Courtesy：LLes Tanneries - CAC, Amilly

マルシェ、講座、展示ブース、ワークショップの多彩な企画

今年の『はならぁと』は、展覧会だけではなく関連イベントして、マルシェ、講座、展示ブース設置、ワークショップを企画しています。

環境に配慮した取り組みを行う団体・企業とともに有機食材やエコな商品等を扱うマルシェを会期中の毎日曜日に開催します。また、マイクロプラスチックの研究者や昔ながらの家づくりを行う職人を招致した講座も開催。

奈良県の環境に取り組むパートナー団体を紹介する展示ブースも設けます。ワークショップはオンラインで開催予定です。

地球に優しいエコロジカルな選択を

広報の印刷物、芸術祭で使う看板や配布物を限りなくサステナブルな素材を意識し、はならぁと実行委員会全体でプラゴミゼロ、ゴミ減を目指します。

今年の入場券は、オーガニックコットンを草木染めしたオリジナルマスクです。

●さてらいと

まちづくり団体やグループが、企画から運営まですべてを担い、町家を舞台とした展覧会を創出。現代芸術展の他にも、地域とゆかりのあるアーティストや、地元の学校と連携したプロジェクトなど、文化芸術をきっかけとしたまちづくりと空き町家の利活用を目指して開催します。

（天理市エリア）

・テーマ：「Meteoron:　11 人の人たちにとってローカルになるから」

美術作家の米村優人と藤本流位により結成されたアートコレクティブ「John Gan Jihn」から、11 名の若手アーティストが複数のメディアを使ったインスタレーション作品を、〈力を加えること／加えられることの相互関係〉を軸に、本町通り商店街にある Art-Space TARN と滝野邸町家の 2 会場にて展示します。

（吉野町上市エリア）

・テーマ：「上市スケッチ」　　・出展作家：栗田咲子、池田慎

出展作家が、古い町並みをスケッチ旅行。旅行中制作された作品と、制作風景を撮影した映像を展示。映像は web でも配信。一昨年会場となった後に改修された六軒町屋敷の中を特別公開します。地元住民の作品展やカフェも開催予定。のんびりまち歩きをお楽しみください。

*** 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手指が触れる部分の消毒や換気を行うとともに、来場者には、当日発熱や風邪症状のある場合は参加を控えていただくほか、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、接触確認アプリ (cocoa) の活用や連絡先の記入を呼びかける等、感染予防対策を徹底して開催します。**

『はならぁと 2020』、どうぞご期待ください！！

最新情報は、公式 HP hanarart.jp にて随時更新します